

令和4年度(2022年度) 健康くまもと21推進会議 第1回 歯科保健部会 議事録要旨

開催日時:令和4年7月15日(金)14:00~16:00

開催方法:オンライン(Teams)または会場

開催会場:ウェルパルくまもと 3 階301会議室

出席委員(14名)

井手 州子、片山 美智子、岸 知子、工藤 壽子、佐藤 成美、田上 敬祐、中村 好郎、
中山 秀樹、濱田 泰之、平川 恵子、藤高 ちよ、松本 健次、三浦 弘文、宮本 格尚
(五十音順・敬称略)

- | | | |
|----|------|-------------------------|
| 次第 | 1 開会 | |
| | 2 挨拶 | 中元保健衛生部長
中山秀樹委員(部会長) |
| | 3 議事 | 熊本市子どものむし歯対策について |
| | 4 閉会 | |

議事(要旨)

【議事進行】 部会長

現在、熊本市においては子どものむし歯が多い状況にあるため、本会議では子どものむし歯対策の集中審議を行う。

〈事務局〉

資料1「熊本市における歯と口腔の健康づくりに関する取組」資料2「熊本市の子どもの歯科保健の現状と課題について」を説明。

〈委員〉

普段、臨床の現場で子どもたちを診ている実感として、以前よりむし歯はかなり減少している。しかし全国的に見るとまだまだ多いという現状があり、その原因もはっきりしない。

〈委員〉

委員が仰るように熊本としては子どものむし歯は減少しており、これまでの成果は出ていると言ってよい。しかし全国と比べるとワーストという事実はある。口腔の健康から全身の健康につながることもあるので、ワースト打開に向けて努力したい。

《委員》

自分が住んでいる区はむし歯が多い印象。祖父母との同居が多く、箸を共有するなど、口腔に対する衛生観念が低いのではないかと。歯科健診に行く人も少ない印象。むし歯予防に対してフッ化物がそれほど有効なものであるのか伺いたい。また、多くの子どもを受け入れている保育所でのおやつとの与え方はどうか。保育所は親の一番の相談窓口でもあると思うので、適切なアドバイスができていないのか。

《委員》

フッ化物については明らかな効果があることがわかっている。フッ化物は歯に取り込まれると歯の質が強くなるがフッ化物を歯に塗布する方法では定期的に塗布する必要がある。また、フッ化物洗口を行うと、歯みがきだけでは届かない部分まで届き、むし歯予防の効果を発揮するため、フッ化物はむし歯を減らすひとつの大きなキーワードと思う。

《委員》

別冊資料 P11 の他都市の状況をみると、むし歯が少ない都市はより幼少期からフッ化物塗布を行っているようだ。箸を共有しないことも重要だが、家族皆の口腔内を清潔に保つようにすることが大切。おやつも、むし歯になりにくいものを選ぶようにコントロールするのは難しい。時間を決めて食べるなど、食べ方も重要。

《委員》

献立は、基本的に熊本市から提供される献立に従っている。フッ化物洗口に関しては、今まで毎年熊本市の方から実施するかしないか、希望調査があった。フッ化物洗口がそれほど効果的であり、有用なら、園に選択させるのではなく、強制的にさせるようにしてはどうか。

《委員》

幼稚園ではおやつを提供はない。
認定こども園ではおやつを提供をしている。

《委員》

保育園等の施設ではおやつも工夫されており、むし歯のリスクとしては高くないと思われる。それより、そういった施設に通っていない子どもの方が心配。

《委員》

おやつとの与え方というより、おやつを食べた後に歯を磨いているのか、といったことのほうが重要。

《部会長》

子どものむし歯有病状況の改善策について、委員の皆様から、ご提案やご意見をお願いしたい
と思います。まずは、事務局から、「現在の取組み状況」と「庁内会議」などで出ている取組み案
について、ご説明をお願いします。

〈事務局〉

現在の「熊本市の取組状況」を説明。

《委員》

自分の娘の体験談だが、妊娠中に無料で歯科健診をしてもらえたのが良かった。自分を含め
た家族の口腔衛生を見直すきっかけになったと言っていた。母子手帳を交付される際に必ず
歯科健診を受けるような仕組みがあると良いのではないか。

《部会長》

「庁内ワーキング会議等での協議結果」を元に各委員よりご意見をいただきたい。まずは「妊婦
歯科健診の受診勧奨の強化」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

「妊婦歯科健診の受診勧奨の強化について」を説明

《委員》

産科医療機関に配布することは可能。産科医師に口腔衛生に関する意識があると良い。

《委員》

現在、薬局ではかかりつけ薬局を持つよう勧めており、歯科でもかかりつけ歯科医院をもって
妊娠期から長く診てもらえると良いと思う。ポスターの掲示など協力可能。

《委員》

広報活動は重要。口の健康は全身にもかかわるので妊婦さんや子どもの頃から啓発していく
のは大事。

《委員》

自分は大学に勤務しているが、将来妊娠する可能性がある、若い世代へ妊娠期の口腔衛生に
関する教育をできる場があると良いのではないか。

「部会長」

「妊娠期からの保健指導の充実」について事務局から説明をお願いします。

「事務局」

「妊娠期からの保健指導の充実について」を説明

「委員」

現在子どもが初めて歯科を受診するのが2歳頃なので、それ以前にむし歯になってしまう子どもにアプローチするのが難しい。1歳6か月児のむし歯を減らすためにはその前の段階である妊娠期や小児科でのアプローチが重要と思われる。熊本市の妊婦歯科健診の受診率は全国的に見ても高いので、それをさらにあげていき、子どもを養育する周りの大人の口腔衛生を管理することが子どものむし歯予防につながることを伝えたい。

「部会長」

視覚的に訴える、リーフレットのような資料は非常に有用である。保健指導となると栄養管理も重要であるが、栄養の面からは何か意見があるか。

「委員」

妊娠期の栄養教育として、行政で両親教室のようなことをやっていると思うが、そういった場に参加しない方にどのように知識を提供していくかが課題である。

「委員」

妊娠したらタバコをやめる、というのはもう社会的な常識かと思われる。それと同じように「妊娠したら歯科健診」というようなコンセンサスを得られれば広まるだろう。

「部会長」

「妊娠したら歯科健診」標語としてもキャッチーで良い。

「委員」

母子手帳交付時に資料を配布する場合、他にも多くの資料があるので埋もれてしまわないかという懸念がある。子どもをいつから歯科医院に連れて行ってよいかなどの情報を妊娠中や妊娠前の若い方に伝えていけるよう、皆かかりつけ歯科医院をもつように啓発していただけると良い。

「部会長」

「リーフレット配布先、設置場所の拡充」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

「歯っぴー39チャレンジリーフレットの配付先、設置場所の拡充について」を説明。

〈委員〉

保育園で是非配布したい。

〈委員〉

園長会等で配布したい。

〈委員〉

保育園等の保護者に何かの集まりの時などに歯科から話をしたり、資料を配布したりすると効果的であるし、その後妊娠される母親もいると思うので、妊娠時の歯科健診にもつながるのではないかな。

〈部会長〉

歯科衛生士会で作成された資料について説明をお願いしたい。

〈委員〉

市の補助金で乳幼児のむし歯予防の動画とチラシを作成し、動画は YouTube にアップしている。チラシは昨年度いくつかの団体で配布してもらった。まだ在庫はあるので請求してほしい。保育所等での講話も依頼していただくと対応可能。

〈委員〉

献血ルームや献血バスなど健康意識の高い方にパンフレット配布などできると良い。

〈委員〉

歯科衛生士会が作成された動画は非常に良くできているので是非見てほしい。パンフレットに関しては直接手渡しで渡すのが効果的であると思う。歯科医師会でも講話に出向くことはできるので依頼してほしい。

〈部会長〉

続いて、「歯科健診とフッ化物塗布」について事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

「歯科健診とフッ化物塗布について」を説明。

「部会長」

資料によると、他の政令市では3歳までにフッ化物塗布を2回以上実施しているところが約半数ある。熊本市は1回のみである。

「委員」

1歳6か月児のむし歯を減らすためには1歳でフッ化物塗布を行うのは重要。他の検診でもそうだが、自己負担金があると受診率は伸びないので無料で数回実施できるようにしていただきたい。初めの数回を無料で行うことでフッ化物塗布の習慣がつき、あとは有料でも継続していく方が多いのではないかと。

「委員」

有料でも子どもたちのためにフッ化物塗布をしなくては、と思ってもらえるように啓発しなければならぬと思うが、初めのきっかけとして無料だと行きやすいと思う。歯みがきと同じようにフッ化物塗布も当たり前に行う習慣がつくと良い。

「委員」

川崎市や岡山市ではフッ化物塗布が廃止(予定)となっているが、なぜか。

「事務局」

目標を達成されたり、自治体主体で行わなくても個人が自主的に受けるなどの意識が高まったとの判断で廃止という流れになっていったと聞いている。

「部会長」

保育所等におけるフッ化物洗口の「実施に向けた施設へのアプローチ」について事務局から説明をお願いします。

「事務局」

「実施に向けた施設へのアプローチについて」を説明。

「部会長」

第2さくら体育幼稚園での取り組みについて私立幼稚園・認定こども園協会の中村委員より説明をお願いしたい。

「委員」

今までは業務負担が増えて大変そうだったので、フッ化物洗口をしなかったが、子どもたちのためにと思って昨年の5月から開始した。対象は年中児と年長児で、実施時間は職員の意見を

もとに登園後や昼食後に行っている。今年の歯科健診の結果では全国や県の平均よりかなり低かったようだ。職員に実施は大変か尋ねたが、CD に合わせて行うのであまり大変ではない、とのことだった。熊本市私立幼稚園・認定こども園協会の設置者・園長研修会が6月に行われた際に参加者に尋ねたところ、ほとんどフッ化物洗口は行っていなかった。そこで当園では昨年度から開始したこと、それほど大変ではないからやってみてほしいこと、目に見えた効果を急がなくてよいことを伝えた。

《委員》

今までのお話を伺っていて、フッ化物洗口がとても良いということはわかったので、これは強制的に無料で行うようにしていただきたい。施設側に選択権があると躊躇してしまうこともあるため、これだけ良いものであるなら、強制的にやろうという流れにしてもらったほうが、施設運営に関してもやりやすい。

《委員》

小学校ではフッ化物に関しては効果があることはわかっているが、現在は感染症対策の方を優先している。どこの学校も少しずつ計画的に進めているところ。

《委員》

むし歯のない永久歯を揃えるためには幼稚園から小学校にかけての歯が生え変わる時期にフッ化物洗口を行うことが非常に重要。生えたての幼若な永久歯にフッ化物が取り込まれることでむし歯になりにくい硬い歯になる。強制はできないため難しいが、できるだけ多くの方に行って欲しい。

《部会長》

小学校に入る前にフッ化物洗口していた方が小学校でフッ化物洗口がなくなったことでむし歯が増えたというデータもあるようなので、そこは切れ目なく続いていくことが大切かと思う。「取組目標について」事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉

「取組目標について」を説明

《委員》

フッ化物洗口などを行っても結果が出るのは3年ないし5年後といったところ。それくらいかけてまずは平均値もしくは真ん中あたりを目標にしていきたい。口腔保健支援センターが熊本市にも県にもできたのでタイアップしてやって欲しい。

《委員》

有病率の順位が10位くらいで政令指定都市平均に近づくので、「目指せベストテン」くらいがよいのではないかと思います。

《委員》

現在、8020達成者は5割を超えているが、その方たちが要介護などになって口腔ケアができなくなるとあっという間にむし歯が増えるという事実がある。大人もフッ化物洗口したほうがよい。

《部会長》

先ほど中村委員のフッ化物洗口の取り組み紹介への意見だが、現場の負担を軽減する意味でもCDなどの資材の重要性というのが汲み取れたと思う。

〈事務局〉

本日いただいたご意見、ご提案は事務局で取りまとめて各委員へ報告する。

「目標」「今後の取組み」について各所属団体の意見を8月中旬までにいただきたい。

第2回の歯科保健部会は8月26日金曜日2時からの開催を予定。オンラインと会場と併用で行う。